

て、草帶のごとし、花よくあつまりさく見事、又も、いろの八重もあり、是はさきわけよりわるし。

火桃
なるほどくれない、八重又緋桃とも書

大坂桃　是を今世間にてあめんだうといふ葉ほそ長く、木立かみて花も、いろ大りん

源平桃　白赤さきわけ、八重ひとへあり、

白桃

紅桃 火桃より色うすし、八重ひとへ有。
玄だれ桃 も、いろ八重一重有、大りん木やなぎのびとく玄だる、
すばい 火桃の一重なり、色よし。

さきわけ 源平桃の事か

紅玄だれ
玄だれも、の色少あかき物なり

長せいもく
くわしくあらす

よろいたうし 花も、いろ、ひとへくりん桃すぐれて大きし

李すり、
花形白小りん、八重ひとへあり、

にがも、とも、いろひとへ式重白きも有りつまでもこがし

ج

卷之三

卷之三

かひき
自らにんじんせいし

夏も、春、いひひとへ大りん相は春咲も、の色ぐ事はやし

〔花壇綱目〕桃珍花異名の事

南京も、壹重葉は柳
一重も、白赤あり、中
も上も、桃の中にしての大輪、さも、
うす色なり